分節・セットバックした建物ボリュームとそれらを繋ぎ合わせる回廊

-森を知り ,森と親しみ ,森を創る -

風土の魅力を感じられる 体験としての建築 / 女神の森セントラルガーデン

八ヶ岳南麓に佇む森の中の集会場。 ホールは地域内外の人々に開放され、 また自社利用として研修等に利用される。 緑溢れるこの地を訪れた人々が建築空間を通して森を知り、 森と親しみながら、 豊かな風土を体験できる施設を創ることを目指した。

大小の空間を回廊状の遊歩道で繋ぎ森に溶け込ませることで豊かなシークエンスを生み出している。 森との親和性を高めるため、 幹や枝葉の多層性を表現した 「肌理 （きめ）」、 森を抽象化した 「森綾 （もりあや）」 モチーフといった表現を体験の中に織り込んだ。

ランドスケープでは自生種が持つ季節毎に現れる植物の色を拾い上げ 「カラーパレット」 のように群植し、 植生を知るきっかけをつくるとともに自然の魅力が凝縮された風景を創出した。 また、 アカマツ人工林から広葉樹自生林へと植生転換を図り、 「林縁」 を整備することで生育活性化を促した。 開発前後に 「緑のお引越し」 ワークショップを開催し自然保護活動の体験を共有した。 最小限とした伐採木もすべて活用し温みのある空間を演出している。

建物をかたちづくる全ての取組みが、 この土地固有の価値として森の新たな体験を創出し、 地域の文化発展と自然保全へと寄与している。

Learning the forest, familiarizing with the forest, creating a forest
Architecture as experience to feel the feature of climate / Goddess of the Forest Central Garden

This is a meeting place in the forest standing at the southern foot of Yatsugatake. It is used for training etc for in-house use and also open to anyone. We created a facility people who visit this green-full place can learn the forest and experience rich climate through the architectural space.

It creates a rich sequence by connecting large and small spaces with a corridor-shaped promenade and blends into the forest. In order to enhance affinity with the forest, we embraced expressions such as "Kime" expressing the multilayer nature of trunk and branches, and "Mori Aya" motif which abstracted the forest.

In the landscape, we picked up the colors of plants appearing every season of native species, germinated like a "color palette", created a chance to know the vegetation and created a landscape where the feature of nature was condensed. In addition, we tried vegetation conversion from Japanese red pine plantation forest to broad-leaved trees native forest, and urged the growth. Through the project, we held a "Green Moving Workshop" and shared experiences of conservation activities. We use minimally harvested trees to produce warm space. Every effort to formulate the building creates a new experience of the forest as the unique value of this land, contributing to local cultural development and nature preservation.

森に溶け込む建築

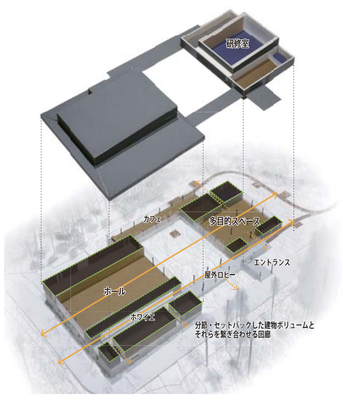
複合する機能を、 大きなひとつの建物ではなく用途を持った 「場」 に分節し、 それらを回廊で繋ぎ合わせることで森に溶け込む建物のボリュームとした。 建物上部はセットバックすることで、 森に対しての圧迫感を軽減し、 周囲に生育するアカマツ林の中にその存在感を埋没させている。

八ヶ岳南麓の豊かな自然を享受する

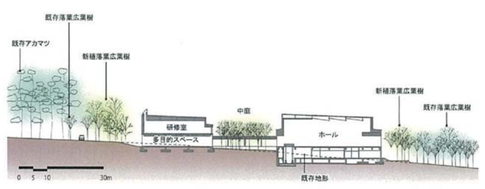
駒ヶ岳を背景に建築を包む大らかなランドスケープ

森との新たな関係を体験するシークエンス

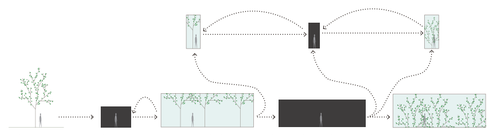
大空間に付属する諸室や風除室等を小さなボリュームに分節して森に散りばめ、 南北方向への大きな広がりと東西方向への視線の抜けを生む開口部を風景との関係を築きながら配置した。
空間の大小 ・ 明暗 ・ 高低 ・ 内外といった抑揚をシークエンスに与え、 特別な場所を訪れているという高揚感を来訪者に演出している。



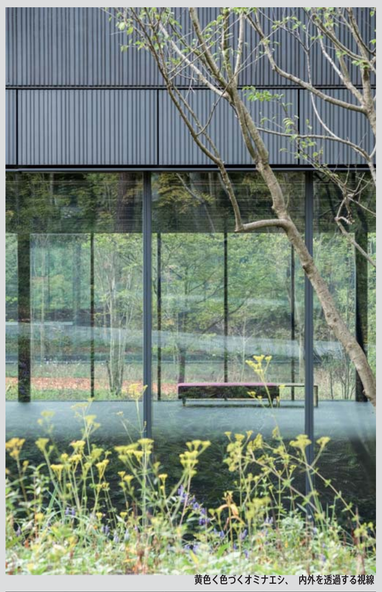
森の中に散りばめられた箱の残余としての大空間と、 箱の隙間から抜ける視線と空間の広がりにより森との関係が形成される全体構成



南北で約 8m の高低差がある敷地に対して、 1FL を一定とすることで相対的に変化する周囲の地盤面及び樹木との様々な関係を作り出す



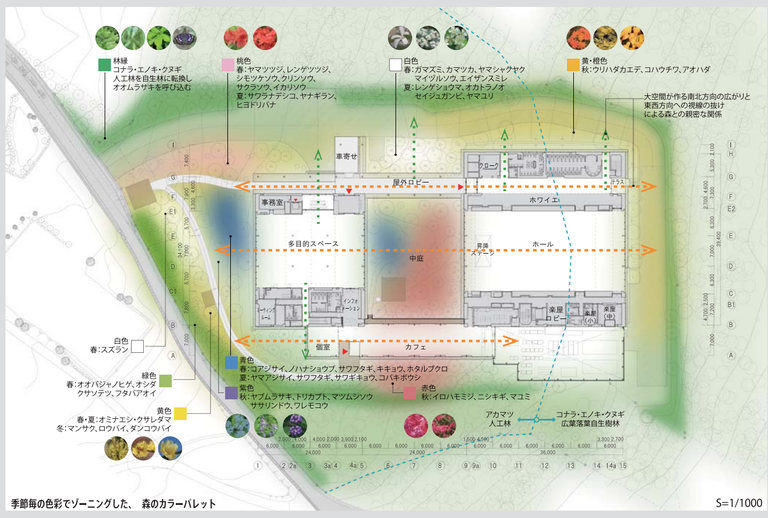
開放的な空間とそれに抑揚を与える閉鎖的な空間、 樹木との関係が変化する様々な空間を通り抜けるシークエンスを形成する



黄色く色づくオミナエシ、 内外を透過する視線

地域の魅力を凝縮したランドスケープ

ランドスケープは既存植生の分布を丹念に調査し、 アカマツ主体の針葉樹林から豊かな生態系を育む落葉広葉樹林への緩やかな転換を図り原風景への回帰を促すと共に、
自生植物を花や葉の色毎に再編集し、 カラーパレットのように四季の彩りを鮮やかに増幅する。
過密であった樹林密度を調整して光に抑揚を与え、 既存樹と針葉樹が織りなす光の差す林縁を作り出し、 樹液を求め盛落うオオムラサキを呼び込む仕掛けとした。



季節毎の色彩でゾーニングした、 森のカラーパレット　　S=1/1000

樹木の維持保全の取り組み

開発エリアの緑をできる限り守り、 地域植生を活かした計画とすべく、
緑のお引越しワークショップを開催し森を知る機会を創り、 地域の方に
環境的意義を体験を通して理解を深めてもらった。

伐採前の残置樹木の選定 ・ マーキング （2014.8）

伐採エリアの苗木を隣地へお引越しするワークショップを開催 （2014.10）

避難した苗木を再び敷地に戻すワークショップを開催 （2017.5）

時々刻々と移ろう半屋外のロビーと中庭の風景

中庭に面したロビーがホールに向かう高揚感を演出する

緑を映しこむ天井の設え、 南へ向けて視線が抜けるホワイエ

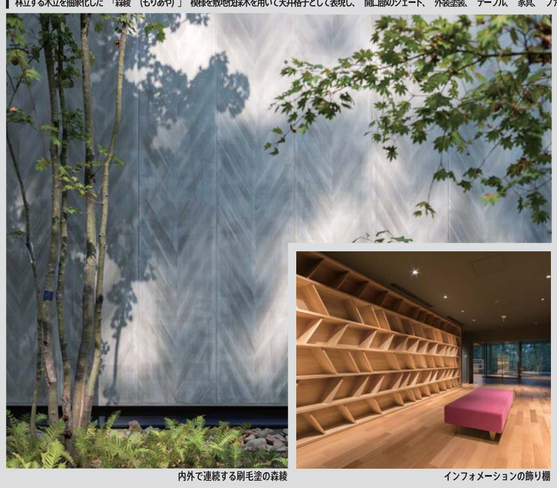
開放的で森の中の広場のような多目的スペース

樹木と周囲の景色を映しこむ天井が来訪者を迎え入れる

森綾模様の壁面が外部より連続し、 その隙間から東へ向けて視線が抜ける

森との親和性を高める肌理の表現

草木の幹や枝葉など、 森が持つ細かなスケールの集積と多層性を 「肌理 （きめ）」 として建築の表層に織り、 森との親和性を高め自然と寄り添う暖かな表情を生み出した。
林立する木立を抽象化した 「森綾 （もりあや）」 模様を敷地伐採木を用いて天井格子として表現し、 開口部のシェード、 外装塗装、 テーブル、 家具、 ファブリック等に展開した。

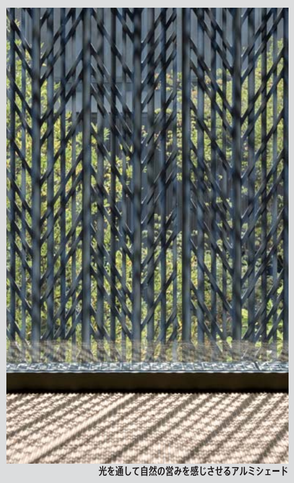


内外で連続する刷毛塗の森綾

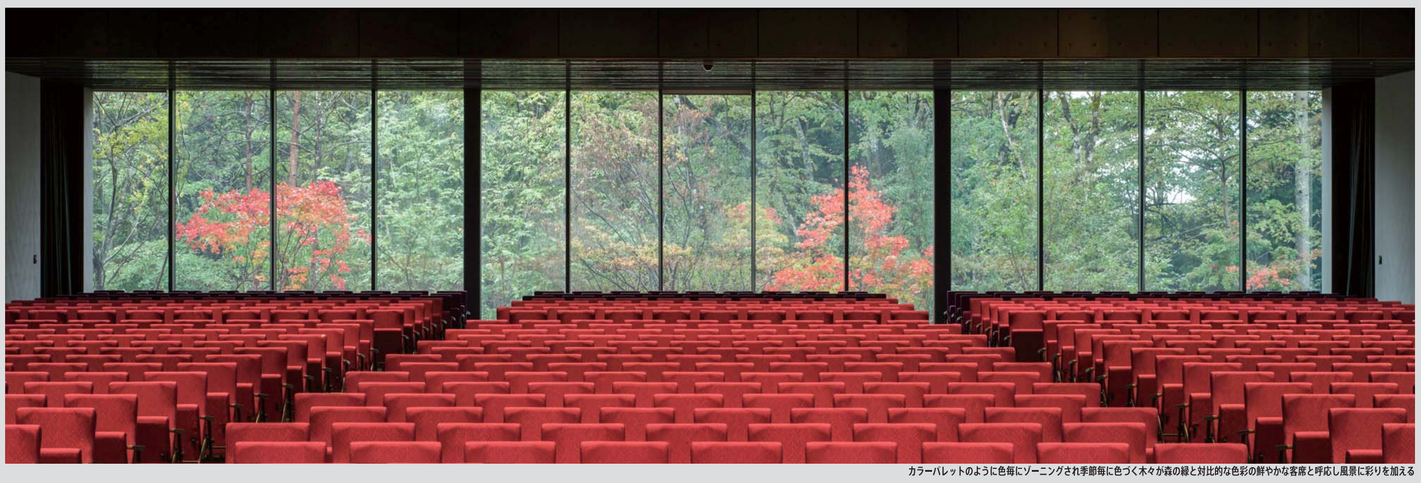
客席のファブリック

インフォメーションの飾り棚

テーブル天板



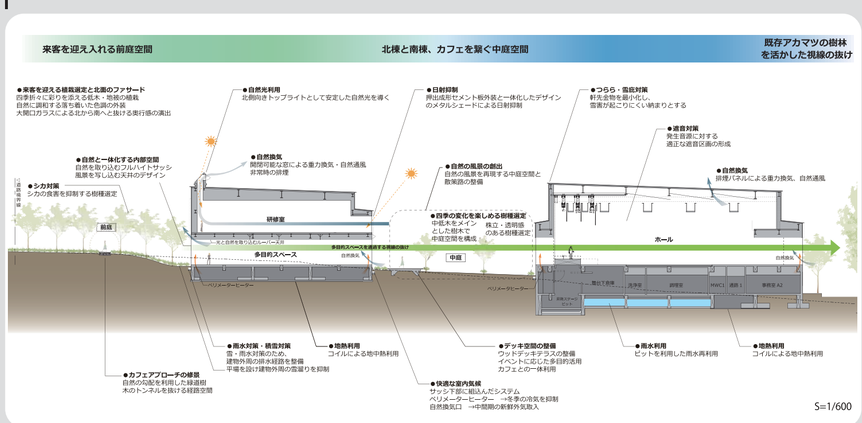
光を通して自然の営みを感じさせるアルミシェード



カラーパレットのように色毎にゾーニングされ季節毎に色づく木々が森の緑と対比的な色彩の鮮やかな客席と呼応し風景に彩りを加える

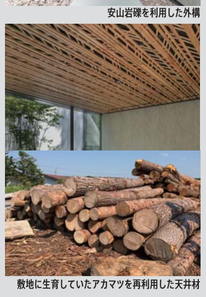
風土に呼応する環境建築

山の稜線を流れる卓越風利用の自動制御自然換気、 日本一の日照時間が生む効率的な地熱利用、 地産地消を促す木質ペレットボイラーによる温水ペリメータヒーターなど、 四季の変化や土地特性に応じた
自然との関わりをデザインへと展開し、 CASBEE-S ランク相当の環境性能を有している。 また、 掘削時に排出された安山岩礫や敷地に自生していたアカマツなど現地発生物の活用を実践している。



現地発生材利用

安山岩礫を利用した外構



敷地に生育していたアカマツを再利用した天井材

地中熱利用

コイルによる地中熱利用 （クール ・ ヒートチューブ）

バイオマス利用

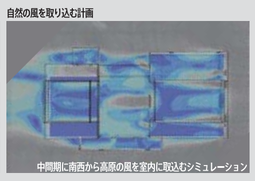
地域材を用いた木質ペレットボイラー ・ 冷凍機

極寒地のペリメータ対応

サッシ廻りは温水ヒーターを設置

自然換気を行う部所では導入口と温水ヒーターを一体化して床下に埋込

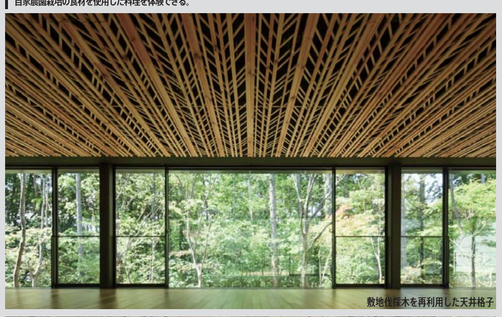
自然の風を取り込む計画



中間期に南西から高原の風を室内に取込むシミュレーション

豊かな食体験ができる、 森と一体となったカフェ

四方がガラスと緑に包まれた開放感のあるカフェ。
敷地伐採木を使うことで周囲の森との親和性を高める木格子天井と、 イロハモミジと自生したコナラ ・ シラカシの林、 周囲の森の延長としての中庭に挟まれたレイヤーが織りなす空間で
自家農園栽培の食材を使用した料理を体験できる。



敷地伐採木を再利用した天井格子

緑がトンネル状に覆う遊歩道となるカフェへのアプローチ

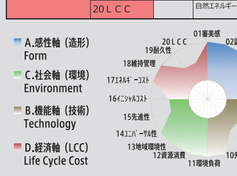
地域の魅力を味わえる食材と料理

森の奥行きを知覚するカフェ空間

緑の中で生まれる豊かなひととき

環境 ・ 設備デザインの評価

□評価項目		□特に重視したデザインの視点	□評価項目に対する設計者のデザイン意図（従前のデザインに比較し、優れている部分、卓越している部分に関して具体的に記述してください。）	□自己評価欄 普通 0	優れている +1	卓越している +2	小計
A.感性軸（造形）Form	01審美感	☆	"森の中のホール"として建物における空間体験を通すことでより自然の美しさ・素晴らしさを感じられるよう、建物内外での森との関係、木々の見え方、光の取り入れ方等に注力した。			○	2
	02調和性	☆	森を構成するその昔や帝冠等の集積を"森綾"というパターンで抽象化し、建物を肌理細かな表層で覆うことで森との調和を生み出している。			○	2
	03独創性	☆	敷地内の植生を再編集するランドスケープでは、施主の事業内容であるお花畑からインスピレーションを受けた"カラーパレット"に倣って色毎・季節毎のゾーニングを行うことで自然の移ろいを体感することを可能としている。			○	2
	04象徴性		分節やセットバックにより、建物ボリュームとしての象徴性は敢えて弱し、シークエンスや開口部からの風景の断片としたお体験への転換を図っている。		○		1
	05完成度	☆	建築・設備・ランドスケープ・維持管理運用計画等の全ての設計行為を"新たな森の体験"を生み出すという価値に収斂させた。			○	2
B.機能軸（技術）Technology	06機能性		建物内各所開口部に設けた温水ヒーターを活用することによって、冬期に敷体をややすこなく使用することが可能。薪炉を囲むとともに、ウォーミングアップ等の時間を短縮することを可能としている。			○	2
	07効率性	☆	高効率な熱源機器を導入し、設備機器の運転に対して自動制御による各種省エネルギー制御を可能としている。自動制御の自然換気システムを採用し、天候・気候に合わせた空調負荷低減を可能としている。			○	2
	08利便性		建物の多用途な使い方に対応できるよう、空調機器、系統を分けた計画としている。		○		1
	09安全性		様々なユーザーが使用することを想定し、昇降式ステージやパトノ等の舞台機構については安全装置を設けるとともに、周囲の衝突等防止については、キャットウォークからのメンテナンスを行える位置に設置した。		○		1
	10先導性	☆	建物内各所開口部に設けた温水ヒーターを活用することによって、冬期に敷体をややすこなく使用することが可能。			○	2
C.社会軸（環境）Environment	11環境負荷	☆	地中熱を空調に用いることで、空調に必要なエネルギーを抑える計画としている。自然換気を導入し、中間期等における空調負荷を低減している。			○	2
	12資源消費		バイオマスペレットを用いた熱源機器を導入することで、自然資源を有効に活用している。現地伐採木を100%利用した計画とし、現地発生資材を構築的に利用した。			○	2
	13地域環境性		屋外に設置している設備機器類はルーバーで囲い込み、近隣へ騒音が拡がらないように配慮している。地域の自生植生をランドスケープに展開、原風景である広葉樹林への転換を図る林縁を優先。地域環境保全に寄与した。			○	2
	14コミュニティ性	☆	8mの敷地レベル差をアプローチ及びアプリシュンプレ、バリアフリーの計画により施主の意向を反映した計画とした。訪れる人が森を体験し、自然の豊かさを感じられる設えとした。人の五感を刺激し、健康にやさしい施設づくりをおこなった。			○	2
	15先進性		自動制御換気システム・地中熱利用・温水ヒーターほか先進的な要素技術を各部に導入しながらも、風景や空間の親密的な雰囲気は敢えて抑制し、加えて、無人作当に建築の詳細のみに頼べもし、シンプルな雰囲気と共存させた。			○	1
D.経済軸（LCC）Life Cycle Cost	16イニシャルコスト		傾斜地を生かした建物・階高構成とすることで施工時の掘削土が限り限りとなる工夫を図るとともに敷地を有効に使い残土の設置を減らして処理した。		○		1
	17ランニングコスト	☆	地中熱・自然通風利用による空調負荷を低減することで、ランニングコストを低減している。中央監視装置により熱源や空調機器等の制御を行い、省エネルギーな運転を行えるような計画としている。			○	2
	18維持管理	☆	積雪に耐えうる構造計画と屋根の仕上げ、水はけや雪庇対策、ウロコ状屋根瓦の工夫、屋根裏部のディテール、雨漏へのケラーれの設置に安全性と維持管理性に配慮した計画とした。			○	2
	19耐久性		災害に耐えうる耐震グレード設定、積雪、極寒地に耐えうる外皮性能を確保した。		○		1
	20ＬＣＣ		自然エネルギー利用、現地発生物の再利用を積極的に行うことでLCCの低減を図っている。		○		1



概要

- □建築名 ： 女神の森セントラルガーデン
- □建築地 ： 山梨県北杜市小淵沢町 1578
- □主用途 ： 集会場 ・ 研修所 ・ 飲食店舗
- □敷地面積： 9,588.85 ㎡
- □建築面積： 2,787.36 ㎡
- □延床面積： 5,385.13 ㎡
- □構造 ： S ・ RC 造
- □階数 ： B1,F2
- □高さ ： 14.5m